

これからの産学官連携、国際連携、人材育成等についての考察

株式会社富士通研究所 佐々木繁

■基本的な考え方

前回の「研究開発、国際標準化、成果展開等の推進方策」についての議論の場で、国際競争力の強化に向けた考察を述べた。「グローバル視点でのありたい姿」を描き、社会実装を展開する際には、その国の文化や制度に準拠したシステムが求められるものと考ええる。研究開発の段階から、そういうことを意識し、国際連携のプロジェクトを多く進めていくことが重要だと考える。

■提案

1. 2012年度より総務省／NICTで開始された「戦略的国際連携型研究開発推進事業」の事業を、欧州だけではなく、米国やアジア、オセアニアなどへ広く展開するなど強化／拡大させてはどうか。
2. 国際的に活躍できる人材を育成する意味で、多くの若手研究者を海外に送り出し、
 - ・文化や制度の違う国でいろいろな背景を持った人たちと共創・競争する力、自ら考え行動する力を養う等の目的で、プロジェクトベース(PB)の活動への参加を推進されてみてはどうか。
 - ・PB活動を通して、起業家精神の創発、養成の強化を図られてはどうか。
3. 欧米大学からサバティカル対象の先生方を日本企業や研究機関に積極的に招聘し、ダイバーシティなイノベーション活動へつなげていかれてはどうか。